

東京農業大学・東京情報大学の最新情報をお届けする

# 新・実学ジャーナル

January+February  
2019  
No.156

1+2



▶ **研究&教育 最前線**

産後うつにどう備えるか

東京情報大学 准教授 市川 香織

▶ **ZOOM UP**

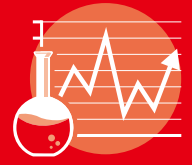
東京情報大に訪問看護ステーション「生きる」を支える看護を

▶ **社会に貢献する経営** 実践の3人に東京農大経営者大賞

私の宝もの My Treasure

リヤドロの人形 川口 孝泰

学校法人東京農業大学



## 研究&教育 最前線

The front line of  
research  
and education



東京情報大学

### 准教授 市川香織

いちかわ・かおり／1968年千葉県生まれ。武蔵野大学大学院看護学研究科看護学専攻博士後期課程修了。東京情報大学看護学部看護学科准教授。博士（看護学）。

- 専門分野：母性看護学
- 主な研究テーマ：産前産後ケアに関する研究、健やか親子21に関する研究、早産児を出産した母親の支援に関する研究
- 主な著書等：新版助産師業務要覧第3版Ⅲアドバンス編、臨床助産テキスト第3巻産褥

# 産後うつにどう備えるか 予防と早期対応で幸せな家族のスタートを

妊娠、出産を乗り越えて、わが子を腕に抱き幸せな日々が始まるはずの産後。出産という人生の大事業には、誰もがそのようなイメージを抱いている。しかし、夜間の授乳や慣れない育児に追われ、その負荷が少しずつ積み積もっていき、何もする気が起きなくなったり、わけもわからずみじめな気持ちになって涙が止まらなくなったり、時にはもう死ぬしかないと思ひ詰めることも起こってくる。そんな症状が出たら、それは「産後うつ」の可能性が高い。

## 10人に1人 産後うつのリスク

産後にうつ病が発症することは多くの国で認められており、アメリカの臨床心理学者、オハラらの研究によると、研究用診断基準(RDC)でうつ病と診断される産婦の率は10・5%、米国精神医学会の精神障害の診断と統計マニュアル(DSM)で診断される産婦の率は7・2%とされる。

日本でも、母子保健の国民運動計画である「健やか親子21」で、産後うつ病の可能性が高い産婦の割合の推移を追っており、13・2%から9・0%と報告している。また、2005～14年の10年間に東京23区で発生した妊産婦の異常死の分析によれば、妊娠中

## 「産後」をよく知ろう

筆者は助産師としての病院勤務や産後ケアの実

23例、産褥<sup>さんじょく</sup>1年未満40例の合計63例の自殺が確認された。この報告では、自殺した妊婦の約4割がうつ病または統合失調症であり、産後の女性の6割が産後うつ病をはじめとする精神疾患であったことが明らかになった。国内の周産期医療は、妊産婦死亡が年々減少し身体的なリスクが克服されつつある一方で、精神的なリスクに対するケアや支援が不足していると言える。産後うつは本人のみならず、母子関係や子どもの発達、パートナーなど家族への影響も大きく、予防と早期対応が重要である。

実践経験から、産後うつは予防が肝心だと考えている。

まず、一つ目に重要なことは、産後の女性の心身の状態について、出産する女性自身とその家族が知っておくことである。出産直後はホルモンの変化で気持ちの浮き沈みが激しくなりマタニティ・ブルーズになる人も多い。

マタニティ・ブルーズは一過性で、涙もろくなった感情の起伏が激しくなったりしても、数日から1週間程度で気持ちが落ち着いてくる。しかし、うつは急激な気持ちの落ち込みとともに、赤ちゃんの世話だけでなく、家事や自分の身の回りのことさえもできなくなる。自分の感情を抑えられずパートナーに激しく当たったり、そうかと思うと表情がなくなり笑わなくなる。理由なくみじめな気持ちになって、自分を傷つけたくなることもある。

うつの症状は様々だが、抑うつ気分が数週間続くのが特徴で、一番の対処法はとにかく早く症状に気づいて対策をとることである。しかし、産後は育児に追われており、さらにうつになれば自分自身がその状態に気づくことは難しい。そこで、パートナーや実家の親など身近にいる家族が最初に気づいてあげることが大切である。早く気づけば、育児などから一時的に離れ気分転換するなどリセットできる。

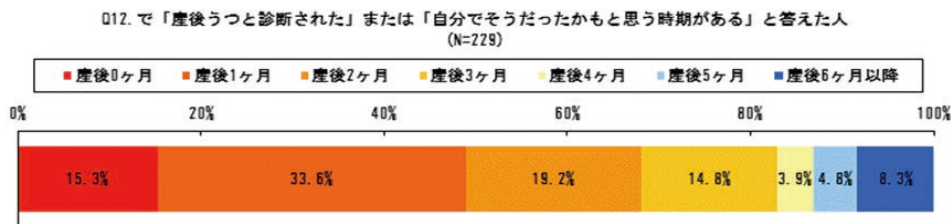
周囲が「母親になったのだから当たり前」と女性だけに育児や家事を押し付けられないことが重要である。まじめで完璧を求める人ほど、自分自身でも母親役割を背負いすぎてしまう傾向がある。どんな人でも産後は大きな変化を経験し、産後うつになる可能性があることを知っておくこと、それがセルフケア

産後3か月のサポート計画を

の第一歩と言える。

そして二つ目の対策は、産後の女性への支援を、母親が孤独感を強く感じる産後3か月までと捉え、家族のサポートや社会資源の活用を妊娠中から計画しておくことだ。

「産後うつと診断された」または「産後うつと診断されていないが自分でそうだったかと思う時期がある」と答えた人の産後うつの時期



出典：「産後の“心の健康”」についてのアンケート集計結果，2016年6月実施，ベピカム株式会社

図1 「産後の“心の健康”」についてのアンケート集計結果

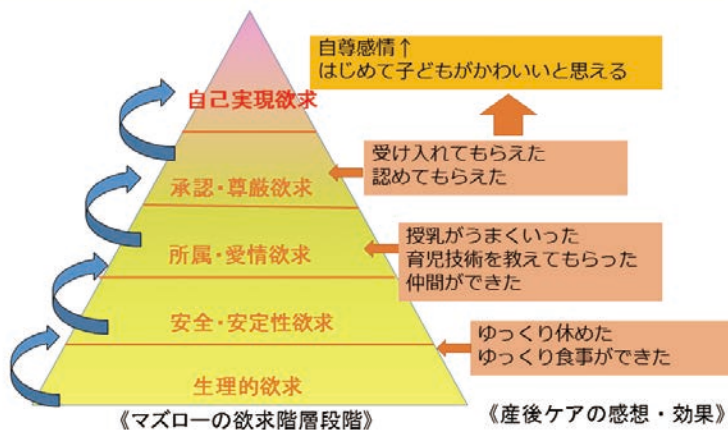
図1は育児サイトで筆者が行ったアンケート結果である。出産経験者477人に「出産後1年間で産後うつだったかもしれない時期はあるか」と尋ねたところ、「産後うつと診断された」、「診断されていないが自分でそうだったかと思う時期がある」が合わせて約半数の229人もいた。さらに、それはいつ頃だったか尋ねると、産後1〜3か月までが多く、特に出産直後よりも産後1か月を過ぎ3か月までの頃にその割合は高い傾向が見られた。この期間の女性たちは、赤ちゃんを連れて外出することもままならず、家の中で赤ちゃんと2人きりで長時間過ごさざるを得ないため、社会と断絶した孤独感を感じているのではないかと考えられた。

また、近年は高齢出産の増加で、産後に自分の親や夫の親からの支援が受けられない人も増えている。そのような人のための、産後ケアの支援が始まっている。提供される場所は、産後ケアセンター（産後ケア専門施設）、病院、診療所、助産所等である。施設に宿泊して産後ケアを受けるショートステイ、施設において日帰りで産後ケアを受けるデイケア、家庭訪問で産後ケアを受ける訪問型の支援がある。

産後ケア施設では、母親の体の回復を図るための食事や休息、授乳の指導、育児指導や支援などが助産師などの専門家により提供される。出産施設での慌ただしい数日と違い、それぞれのペースに合わせ家庭での子育てで困らないよう、ゆっくり、ゆったりと母親になっていくことをサポートしてもらえらる。

図2は産後ケアを利用した母親たちの感想を筆者がマズローの欲求階層段階に応じて図示したものである。子育てが楽しいと思えるようになるために

産後はまず母親になった女性を十分にケアすることが必要



注：産後ケアを受けた女性達の発言・感想をマズローの欲求階層段階に当てはめて筆者が図式化

図2 産後ケアにおけるマズローの欲求階層段階

は、まず母親自身が十分にケアされなければならぬ。人は人から大切にされて初めて自分を大切に思える。そして、大切にされるという経験から、我が子を可愛いと思うことができ、子どもへの絆が深まる。身体的な疲れを癒すことは育児不安や焦燥感を取り除くことにもなり、何より専門家とのつながりを持つことはその後の安心感にもなり、産後ケアは産後うつの予防に寄与していると言える。

幸せな家族のスタートである産後早期を大切な時期ととらえ、産後うつの予防に寄与する研究や産後ケアの実践をさらに進めていきたいと考えている。

# 東京情報大に訪問看護ステーション

## 「生きる」を支える看護を

### 農大サポートが開設

2017年に看護学部を設置した東京情報大学に、情報と看護を融合して地域の医療を支える「ヘルスケアサポート東京情報大学訪問看護ステーション」が開設された。在宅医療を支える遠隔看護システムの開発を進める遠隔看護実践研究センターの実証研究も協働推進し、次世代型地域医療のモデルづくりを目指す。

【東京農業大学客員教授・鈴木敬吾】

#### 地域包括ケアシステムの核

訪問看護ステーションは、国が2025年をメドに体制づくりを目指す「地域包括ケアシステム」の核となる。25年には団塊の世代が75歳以上になり、国民の5人に1人が後期高齢者になる。医療や介護の需要が増す一方で、医療機関のベッド数の大幅増は見込めない。社会保障費の増加も国の財政を大きく圧迫している。亡くなるまで病院で過ごすことが多い従来型の医療体制を転換し、高齢者が要介護状態になっても住み慣れた地域で生活を続け、自宅などで必要な医療・介護サービスを受けられるように「地域完結型」の仕組みづくりを目指している。訪問看護ステーションは地域の医療機関とも連携し、在宅療養中で訪問看護や介護を必要とする人に、看護師を自宅に派遣し、必要なサービスを提供する。

#### 医学系大学以外での開設はまれ

訪問看護ステーションは、24時間体制の新しい在宅介護サービスが06年に導入されたため、既に全国各地に開設されている。付属病院を持つ医学系大学も開設しているが、看護学部しかない大学が開設する例は全国的にも珍しい。「看護師教育の実習先としてだけでなく、既存のステーションにお願いすればいいからです」と加納佳代子・東京情報大特命副学長（看護学部担当）は説明する。「超高齢化社会における地域包括ケアシステムづくりには、ICT（情報処理技術）やAI（人工知能）を活用した遠隔看護の技術開発が欠かせませ

ん。本学は遠隔看護実践研究センターを開設し、遠隔看護技術のプロトタイプづくりに向けた先駆的な研究を進めていきます。その実証実験のためにはぜひとも自前のステーションが必要だった。地域社会に最新のサービスを提供し、学生たちがそうした現場で実習することで、これからの訪問看護に必要な先駆的なスキルを学ぶこともできる」と狙いを語る。

#### 10年以内にロボット実用化も

訪問看護ステーションは、東京情報大キャンパスの遠隔看護実践研究センターと同室、隣り合わせに置かれた。隔てる仕切りはほとんど無く、話し声も電話のやり取りも筒抜けだ。「そこがいいんですよ。訪問看護の現場で何が問題になり、何が必要とされているのが、すぐに、リアルタイムに分かります」。研究センター長の川口孝泰教授は強調する。

「訪問看護では、看護師がその場で症状に心じて正確で効率的・効果的なサービスを提供しなくてはなりません。遠隔看護システムでは、訪問看護師をサポートする様々なデバイス（装置）を想



訪問看護ステーションを中心に取り組んでいる加納特命副学長(右)、諏訪部さん(中央)、川口教授(左)

定しています。例えば看護師が対応を相談するAI（人工知能）搭載のロボットのようなものです。映画スターウォーズのR2-D2をイメージしたらしい。そのAIにどんなパラメーター（プログラムを実行する際に設定する指示事項）を設定するかは、看護の現場で何が起き、何が求められるのかを、熟知していなければ不可能です。学者はどうしても頭でっかちになってしまいます。その意味で今回の訪問看護ステーション開設は大変ありがたい。訪問看護の現場にも同行するつもりです」

そんなAIロボットはいつ実用化されるのだろうか。

「おそらく10年以内。AIの進歩は想像を超えたスピード、ポリウムで進んでいます。ロボットはR2-D2のように大きくなくても良いのです。肩に乗せたりバッグで持ち運んだり…。そんなエンターテイメント性のある知的支援ロボットと共に仕事ができる時代は目の前です」

## 農大サポートが設立 地域ぐるみのヘルスケアシステムの構築を

訪問看護ステーションは、学校法人東京農業大学傘下の学生・教職員の活動をサポートする事業会社、農大サポートが設立した。「住民に学び、住民とともに共創する健康社会作りをめざします」と理念に掲げ、当面、常勤換算（週5日フルタイム勤務を1人とカウント）26人の看護師の体制で、約30人を対象に訪問看護を実施する。訪問看護師歴20年の管理者、諏訪部高江さんは

「訪問看護師は一人一人が情報大の看板を背負います。さらに訪問看護は病院勤務の看護師と違い、病気ではなくその人の生活を見る力も必要。当面、そのスキルアップに努めます。訪問看護はその人の『生きる』を看護の視点から支える活動です。東京農大の『生きる』を支える」というスローガンにも通じるものだと思います」看護学部の学生が実習するのは2020年度からを予定してい

ヘルスケアサポート東京情報大 学訪問看護ステーションの開所と今後の取り組みなどについて、教職員と地域住民に説明する開所報告会が12月4日、開かれた。



報告会には教職員や地域住民ら約50人が参加した

まず、松本信二・農大サポート社長が設立の意義について説明した後、加納佳代子特命副学長（看護学部担当）が訪問看護事業の意義と事業展開の理念について解説。「訪問看護事業は、東京情報大のブランド向上にもつながる」と強調した。

訪問看護ステーション管理者で農大サポート職員でもある諏訪部高江さんは訪問看護の仕組みとそのサービス内容などについて説明した。現場での経験から「今後は

## 学内開所報告会を開く 地域住民も参加

東京情報大が立地する千葉市若葉区は、かねてから地域ぐるみで健康づくりの運動に取り組んできた地域だという。加納特命副学長は「情報大に開設された訪問看護ステーションとして、住民の関心は高く期待も大きい。その関心・期待に応えて、住民を巻き込んだ地域ヘルスケアシステムを構築していきたい」と抱負を語っている。

健康なうちからの予防的な支援が重要になる」と指摘した。最後に川口孝泰教授が「研究者として、学術的な背景を持って訪問看護事業をサポートし、新たな訪問看護事業の成功モデルをつくりたい。2年ほどをめどにこのモデルを全国、世界に広げていきたい」と展望を語った。

参加した地域住民は、報告会終了後、訪問看護ステーションを訪れ、職員から個別に説明を受けるなど、関心の高さをうかがわせていた。



報告会終了後に訪問看護ステーションを訪れた地域住民に説明する加納特命副学長と諏訪部管理者

# 実践の3人に東京農大経営者大賞

## 地域から世界に 業績紹介 上

社会のさまざまな分野で活躍する東京農業大学校友(卒業生) 約16万人の中から優れた経営者を表彰する2018年度の東京農大経営者大賞に、サンファーマーズ代表取締役、稲吉正博さん(65)、天領酒造代表取締役、上野田隆平さん(64)、大場造園代表取締役会長、大場淳一さん(60)の3人が選ばれ、表彰された。3人はいずれも、確固とした経営理念の基に、たゆまぬ努力と果敢な挑戦で業績を伸ばし、社会に貢献する経営を実践している。それぞれの歩みと母校に対する思いなどを2回に分けて紹介する。

【東京農業大学客員教授・鈴木敬吾】

### 「アメラ」ブランドを確立

#### 高糖度トマトで圧倒的シェア

稲吉正博さん 1978年農学部畜産学科卒

### 欧州生産に着手

稲吉さんは、静岡県農業試験場が開発した高糖度トマト栽培法を基に、独自の養液システムを開発し、自ら生産に乗り出した。同時に、同じ方法で生産する農家を集めて生産体制を確立し、高糖度トマト「アメラ」のブランドを全国に定着させた。その過程で、販売、マーケティングを一元的に行う「サンファーマーズ」を設立、周年出荷体制を整え、現在、高糖度トマトの分野で圧倒的なシェアを占めている。昨年にはスペインでアメラトマトの生産を開始、欧州全域への出荷を計画している。

### 「挫折が成長させてくれた」

稲吉さんは農学部農学科に入学したが、2年進

級時に畜産学科に転科している。

「静岡の種屋の長男に生まれ、あまり考えることもなく農大に進学しました。しかし、農大で学ぶうち、農業を実践したいという気持ちが強くなり、中でも酪農をやりたいと考えました。畜産学科に転科し、さらに3年進級時には、酪農を現場で学びたいと1年休学し、千葉、北海道、能登、熊本の4カ所の牧場でそれぞれ2カ月間、住み込みで働いた。でも、酪農の現場は過酷です。朝晩2回の搾乳、畜舎の清掃など一日中作業が続き、一年中休みが無い。とても無理だと悟りました。挫折でした」

卒業後、稲吉種苗店で働き始めた。種苗の販売だけでは展望が開けないため、ビニールハウスなど農業資材の比重を高めた。だが、30歳を過ぎたころ、自ら開発したビニールハウスのビニール洗浄ユニットの販売が失敗し、会社は約500万円の負債を抱えてしまふ。個人商店の有限会社には大きな金額だ。返済に約5年がかかった。

「売ろう  
売ろうとし  
ているうち  
は、業績は  
伸びません  
でした。で  
も不思議な



稲吉正博さん

もので、こちらは損でもお客さんの得になる方を優先しようとしたら、すべてがうまくいくようになりました。転科、酪農体験など、失敗を繰り返してきましたが、すべてが経験として生きたと思います。失敗しない人生を送ってきた人は、失敗しないようにと生き方を判断する。でも、私はそうしなかった。1995年にトマトの生産を始める時も、初期投資に1億円が必要で、やっと借金の返済を終えた時でしたが、決断しました。いろいろやってみて挫折したことで、自分の道を見つけることができたと考えています」

### 泥くさを大切に

アメラトマトの「アメラ」は、おしゃれな外国語と思う人も多いが、実は静岡県中部地方の方言で「甘いでしょ?」という意味だ。地方で始めた挑戦が、従来のトマトのイメージを一新させ、フルーティな高級トマト「アメラ」のブランドは全国に定着した。年商17億円を20億円に伸ばすことが当面の目標だという。母校や後輩たちには何を望むのだろうか。

「私たちが入学した当時、農大を『百姓学校』と言っていました。卑下しているのではなく、泥くさく、体で社会に貢献する覚悟を決め、それを誇りとしていました。AI(人工知能)やIoT(身の回りのモノが

すべてインターネットでつながる仕組み」という言葉が連日、ニュースで流れる現在、アメリカトマトの栽培でも温度湿度をはじめさまざまなデータがコンピュータで管理されています。しかし、自動化には限界があります。最も大切なのは作る人の感覚です。ハウスに入った時、ちよつと暑いなどか、何か変なにおいがするぞと異変を感じ取る能力です。それは現場で身につけるしかない。今、農大を『百姓学校』と呼ぶ人はいないでしょう。でも、いくら頭で考えても、現場でしか学べないことがある。だったら現場に行くしかない。それが実学でしょう。現場で働く方を惜しまず、失敗を恐れない。そう導いてくれる母校であり続けてほしいと思います」

## 桶売り体質を脱却、自社ブランド確立 地元米で「飛驒の酒」の基礎築く

上野田隆平さん 1977年農学部醸造学科卒

### 高級層に絞った輸出戦略が奏功

上野田さんは東京農大卒業後、家業の天領酒造に入社、灘の大手酒造会社への桶売り(委託生産)に頼っていた経営体質を、自社ブランド販売へ転換した。さらに地元岐阜県の酒造好適米「ひだほまれ」による優良酒醸造方式を確立して、「酒づくりは米づくり」を実践した。加えて飛驒酒造組合理事長として「飛驒の酒」のブランド力を向上させ、酒蔵ツーリズム、インバウンド誘致などで地元酒造業界全体の活性化にも貢献した。さらに、早くから海外輸出に取組み、特に高級ホテル・レストランに絞ったプロモーションや、海外富裕層の蔵訪問の推進などで、輸

出を販売の大きな柱に育てあげた。

### 地元の酒を出すのは失礼!?

卒業と同時に、天領酒造の経営を実質的に任せられた上野田さんには試練が待ち構えていた。日本酒の消費量は1973年をピークに下降の1途をたどっていたが、経営は桶売りに大きく依存していた。しかも、父親の社長は、桶売り生産拡大のための新工場建設用地を確保していた。自社ブランドの販売促進と工場用地の活用が喫緊の課題だった。

「まず、地元下呂温泉への売り込みを図りましたが、老舗旅館の主人にこう言われました。『全国から来るお客さんに田舎の酒を出したら失礼だ』。頭がカーツとなりました。灘や伏見の全国ブランドの酒以外を、客に出したら失礼だと言うのです。これではダメだと思い、当時、たくさんいた芸妓さんに宣伝してもらおうと『天領芸者酒大学』なる催しを企画し、芸妓さんたちを酒と食事でもてなして、売り込みを図りました。さらに食品部を創設してシメジの栽培に着手、好調だったため新工場用地に新たに工場を建設し、一時は中部圏最大の生産量を誇るまでに成長しました」

### 試練から学ぶ

下呂温泉でのシェアはトップを占めるようになった



上野田隆平さん

た。ところが、キノコ栽培は、大手の参入で、別会社組織となっていた天領食品の経営は急激に悪化、98年ごろから債務超過に陥ってしまう。

「このままでは本体の経営にも影響すると、2003年にキノコ栽培から全面撤退しました。そんな時に励みになったのが酒づくりでした。酒造会社にとつて、全国新酒鑑評会の金賞は大きな目標です。わが社は92年に一度取っただけで、その後、挑戦を続けましたが、ダメでした。助けてくれたのが、農大の先輩で静岡県・土井酒造の先代社長です。懇切丁寧に指導していただき、2001年に金賞を取ることができました。うれしくて泣きました。金賞は酒づくりの究極のブラッシュアップです。その技術は蔵全体に波及し、ブランドの品質保証になる。赤字だった天領食品も飛驒牛のしぐれ煮などが主力商品に成長し、経営は復調しました」

### 普通の大学にならないでほしい

醸造業界に長年多くの人材を輩出してきた東京農大醸造学科(現在・応用生物学部醸造科学科)は、一般にはよく知られた学科だ。

「学科の同期は46人で大半が造り酒屋かみそ、しょう油屋の息子でした。上下のつながりも濃く、先生方との関係も親密で笑い話になるようなことも多かった。業界での農大の存在感は圧倒的で、醸造卒業生というだけで、すぐに本音の付き合いができました。今の大学内外の状況が当時と全く違うことは承知しています。ですが、あまりスマートにならないでほしい。普通の大学になったら、農大らしさが消えていってしまうのではないだろうか」

## 私の宝もの

My Treasure

## 第8回

## リヤドロの人形

東京情報大学 教授 川口孝泰

かわぐち・たかやす／東京都生まれ。1989年千葉大学教育学部卒業。2000年立命館大学理工学研究科修了後、博士（工学）取得。17年に東京情報大学看護学部教授。専門は看護学、人間工学、建築学など。

私の宝ものは、このリヤドロの人形です。可愛いでしょ。リヤドロはスペインの磁器人形メーカーで、もらってしばらくしてから高価なものとなり、驚きました。兵庫県立看護大（現兵庫県立大）の助教授だった2000年、ロボティクス研究で立命館大から博士（工学）の学位を取得した際、お祝いに、看護大学長だった南裕子先生からいただきました。「これからが始まりよ」と。南先生はその後、日本看護協会長、国際看護師協会（ICN）会長、高知県立大学長などを歴任されました。

私の経歴はだいぶクネクネしています。最初に入った日大芸術学部は2年で中退しました。音楽科作曲専攻に入学しましたが、音楽業界の厳しい実態、坂本龍一ら才能ある音楽家たちとの出会いを通じ、自分の才能の限界を感じ、とても無理だとあきらめました。堅実な仕事にしよう、千葉大教育学部の看護教員養成課程に入り直しました。しかし学ぶのは、ベッドメイキングや身体の拭き方などの実習で、「これが大学で学ぶべき科学？」と疑問を抱きました。卒業研究でベッドと褥瘡（<sup>じょくそう</sup>床ずれ）の研究をするうちに、病室のインテリア設計が面白くなり、大学院は建築学を専攻、その後、手術用ロボット（ダヴィンチ）が遠隔地から操作されるのを目の当たりにして、人間工学やロボティクスに興味を持ち、学位をとり、現在は、これまでの学びのすべてを生かして、「遠隔看護」の実用化に向けた研究をしています。

人形をいただいた2000年の年末に、日本バイオメカニズム学会で論文賞をいただきました。その後、日本看護科学学会や日本看護研究学会の賞を受賞しました。紆余曲折を経てきましたが、研究者として何とかやっていけるかも？と思い始めたのも、この人形がきっかけだったように思います。その後、学会での受賞が続き、筑波大学医学医療系の教授として13年研究・教育者として勤めたのちに東京情報大看護学部へ赴任しました。

職場を思うように移ることができたのも、研究が評価された結果だということ。この人形はその出発点になりました。幸運の人形です。自宅居間の高いウイスキーが置いてある棚の、最上段に飾っています。

でも、南先生にはそのことは話していません。私のその後のことはご存じのはずですが、今度会う時、ちゃんとお礼の気持ちを伝えないとイケませんね。

（まとめ・東京農業大学客員教授、鈴木敬吾）



博士号を取得した際にもらったリヤドロの人形。川口先生の守り神のような存在になっている。



東京農業大学の沿革

## 榎本武揚と横井時敬

創設者は、明治の英雄榎本武揚だ。明治政府で通信相、農商務相、文相、外相などの要職を歴任した榎本は、1891（明治24）年、東京に「私立育英塾」を設立した。その農業科が東京農学校、東京高等農学校と名を替えつつ、拡充の歴史を歩み、今日の東京農業大学となる。東京農学校時代の1895（明治28）年、評議員として参画したのが、明治農学の第一人者横井時敬だった。「人物を畑に還す」「稲のことは稲にきけ、農業のことは農民にきけ」と唱えて、「実学」による教育の礎を築き、東京農業大学の初代学長を務めた。本学の「生みの親」は榎本、「育ての親」は横井である。

## 高等教育から初等教育まで

東京農業大学は、農学部、応用生物科学部、生命科学部、地域環境科学部、国際食料情報学部、生物産業学部の6学部23学科からなり、大学院は2研究科20専攻体制が整っている。世田谷、厚木、北海道オホーツク（網走）の3キャンパスに約13,000人が学んでいる。学校法人東京農業大学の傘下には、東京情報大学（千葉）があり、総合情報学部、看護学部の2学部2学科と大学院1研究科に約2,000人が学ぶ。また、併設校として農大一高／中等部（東京）、同二高（群馬）、同三高／附属中学（埼玉）がある。2019年度には、東京農業大学稲花小学校が世田谷に開校する。

|2019| 東京農大創立128年

学校法人東京農業大学

- ◆東京農業大学
- ◆東京情報大学
- ◆東京農業大学第一高等学校
- ◆東京農業大学第二高等学校
- ◆東京農業大学第三高等学校
- ◆東京農業大学第一高等学校中等部
- ◆東京農業大学第三高等学校附属中学校
- ◆東京農業大学稲花小学校（2019年4月開校）